

私の国におけるジェンダー サボール・アーメッド (パキスタン)

私にとってジェンダー問題とは性差に基づいた特定の役割や責任が存在していることです。パキスタンはイスラム教の国ですが、世俗的な面もあり、今日では国は女性にも権利を与えています。パキスタン憲法は、性転換者や、男性でも女性でもない第3の性に対しても権利を与えています。

過去数年間でパキスタン政府は、ジェンダー平等や女性の保護のための法案を作るなど、多くの改善を行ってきました。パキスタン最高裁判所は性転換者に身分証や投票する権利を与えました。しかし、いまだにパキスタンの女性は家父長制度のために男性から抑圧されています。パキスタンの女性は、自身の権利について知識が無く、経済や雇用に接する機会がないうえに、自分の人生について決定する力を持っていません。女性は家庭内の仕事のみを行うことが多く、外に働きに行くことができません。

女性は抑圧され、性差に基づいた、女性=ピンク、男性=ブルーという概念を幼い頃から植えつけられています。そして社会の風習が、彼女らに良き娘、良き妻、良き母になるように命じるのです。

パキスタンにおいてジェンダー平等への道のりは、まだ初期段階にあると私は思っています。たとえば、パキスタンの国会議員の定数は 342 名ですが、国会議員に占める女性の割合は、まだ 22.2%しかありません。また、エビデンス法や市民法など女性の権利を侵害する差別的な法が未だ存在しています。

私は、伝統的な部族社会が強い地域で育ち、部族の出身です。人道目的で社会分野における実地活動に従事した経験が 5 年間ありますが、私の出身地では、ジェンダー問題というだけで、話を聞いてくれないことが多々あります。家父長制の社会では、教育のあらゆる領域で女性に平等な権利を与えることが認められておらず、女性の識字率は 45%と男性に比べてとても低くなっています。

女性は自身の意志に基づいて結婚することが許されず、男性の許可なく仕事に就くこともできません。彼女らの仕事は家庭内に特定され、男性に暴力を振るわれることもあります。農村部の女性はさらにひどい扱いを受けており、名誉の名のもとに殺されたり、酸を投げつけられたりといった事件も起きています。

最後に、これらのジェンダー問題に関して、パキスタン政府の対応は改善段階にあると思います。前政権はジェンダー主流化に取り組み、ジェンダー平等のための多くの開発計画を作成しました。また、女性に対する経済支援の一環として、女性向けローンを開始しました。この取り組みは女性の地位を向上させることでしょう。

パキスタンにおいてジェンダー問題は新生児のようなものです。私は、変化はもうすぐもたらされるであろう、両性が平等な権利を与えられるようになるだろうと信じています。現在のパキスタンの若者は、両性に平等な権利を与えることに関心を持っている人が多い

と思います。私は女性の権利はもちろん、人権のために活動していますが、多くの若者が私と同じようにこれらの深刻な問題に取り組んでいると信じています。

パキスタンにおけるジェンダー問題は成長過程にあり、変化はもうすぐ見ることができるでしょう。数年前に、女性の権利を侵害する差別的なフード条例が一部改正されましたが、今がこのような差別的な法律を変えていく時期です。すべての性に平等な権利を与え、国や NGO 組織がジェンダー主流化のために活動する時なのです。ジェンダー平等への理解はとても重要であるからこそ、草の根運動を行わねばなりません。